



勝負の夏休み

いよいよ夏休みがやってきました。受験勉強は三年間の積み重ねですから、この夏休みだけでどうにかなるものではないことはひしひしと実感していることでしょう。しかし、通りすぎたことは、もはやどうにもなることではありません。

今日(7/20)がセンターまで、176日です。夏休みが明けると140日を切ることになります。この夏休みで、残りの1/4が終わります。9月は少しの授業後、前期末試験、文化祭と続き、後期が始まるとセンターまで100日を切ります。ちなみに、今年度のセンター試験の日程は、1/13, 1/14と例年よりも早くなっています。

以上のような流れの中では、挽回するには夏休みが最後のチャンスです。自分の都合で、「まずは英語」とか、「とにかく単語」などと言っている場合ではありません。この夏で、センターまでの半分の期日が過ぎるわけですから、目標の半分、もしくは、やることの半分が終わらなければ、合格はおぼつかないのです。その意味では失敗は許されません。自分の限界から考えるのではなく、目標に到達するための計画をしっかりと立てるようにしましょう。

「苦手なことは克服する」「苦手なものは苦手なものをやる(得意なもので苦手なものをカバーはできない。できることをやっても、できないことはできるようにならない。できないことに、立ち向かって、できないことをやろうとしない限りできるようにならない。)」 「時間が足りなければ増やす」「時間が増やせなければ効率的にやる」 当たり前のことを全て徹底してやりましょう。この期に及んで、苦手なことを回避するようでは、どうすることもできません。奇跡を起こすなら、まず、当たり前のことを徹底すべきです。

もちろん、夏休みに入る前に、先生方にチェックしてもらうことも重要です。わからなければアドバイスをもらう、そういう当たり前のことを徹底しておかないと、取り返しがつかなくなってしまうでしょう。それでは計画を立てていきましょう。

夏休みの計画のチェック事項



夏休みの計画は、必ず次の2方向から正しい計画かどうかをチェックしましょう。

- ① やるべきことは何で、それをやるのにどのくらいの時間がかかるのか
- ② 夏休みにはどのくらいの時間があり、どこまでやれば受験に間に合うのか

こうしたチェックをかけることで合格にたどりつく計画かどうかわかります。これから適切な計画が立っているか一緒にチェックしていきましょう。

チェックの前に 目標は立っていますか?

目標なくして、夏休みの計画はありません。必ず有力志望校の出題傾向を調べ、適切な対策を立てましょう。

例：現代文は、小説の出題がありますか？古典では漢文の出題がありますか？英語では、自由英作文や英語による要約がありますか？英文和訳はどのくらい出ますか？長文の長さや内容に特徴はありますか？歴史は、記述・論述がありますか？etc

チェック①やるべきことを考える

第一に、目標に合わせてやるべきことを考えてください。次に実際に、少しでもいいのでやってみましょう。そして、

その時間をもとに、全部終わるのにどのくらいかかるのか計算してみてください。たとえば、1ページの半分に15分かかるとするなら、1時間で2ページです。全体が200ページなら、100時間かかることになります。こうした時間を計算できないと、限られた時間でどのくらいできるかをはかることができません。

チェック②夏休みの時間を考える

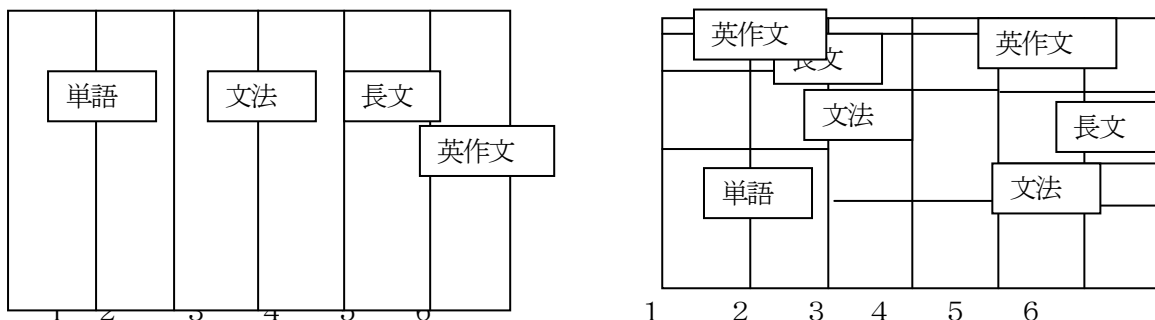
夏休みの40日ですから、1日ずつ計画を立てるのではなく、10日×4ブロック、ないしは7日×6ブロックにして、各ブロックどのくらいの学習時間があるのか計算してください。その際、講習を受ける時間は除いておきましょう。この時間があなたの夏の総量です。

チェック③ ①と②を比べて全体像を作る

こうして①と②を比べて、夏休みの学習計画の全体像が見えてきました。総量よりやる人が多い人は優先順位を考えるか、総量を増やすしかありません。その際、必ず受験期までの残り時間を検討してください。これを検討しないで、「時間が足りないから、夏はこれだけ」というような計画では、受験までに間に合いません。残り180日の40日ですから、1/4程度の日数だと思われかもしれませんが、夏休みが終われば学校の授業がありますから、自習時間でいえば、半分が終わるといっても過言ではありません。受験に間に合うように、半分程度は最低でも終わらないと話にならないでしょう。

チェック④各ブロックで必ず、全科目、全分野を行う

計画を立てるに当たり、必ず全科目、全分野を各ブロック（1週間から10日）に行ってください。たとえば、合格を勝ち取った受験生が、4月に同じ入試問題を解いて同じ得点がとれるかといえば、非常にあやしいところがあります。学校があるうちは、授業という最低限の保証がありますから、そうはいっても0になることは少ないですが、夏休みは、各自の意識によっては完全に空白になります。そういう意味では、単語→文法→長文というような計画はまずいものです。勉強の定着の面から考えても、そのブロックの重点はあるにせよ、薄く地層のようなイメージで学習計画を立てなさい。



左のようなイメージでなく、右のようなイメージで、重点は変わっても全てを行うこと、これを教科についても、分野についても行ってください。

チェック⑤模試の活用、赤本の活用

私立型の生徒はともかく、国公立型の生徒は、なかなか全教科、全分野の確認ができないかもしれません。その場合には、模試や赤本をうまく活用するとよいでしょう。具体的には、各ブロックで、模試や赤本を一回入れるように計画します。そうすれば、必ず試験に必要な分野、科目を1度は学習したことになります。もちろん、「わからない→白紙」ではやったことになりませんから、解き直し→理解のサイクルも計画に入れる必要があります。

チェック⑥短時間でも必ず全科目を

理科や数学は問題演習量が全てを決めますので、減らすことができません。しかし、文系科目などは、短時間でも必ず毎日することが重要です。そうした時には最低限の学習として音読をすすめます。

現代文の問題集の場合、理想は「毎日解く→毎日要約」ですが、毎日できないからといって、何もしないのでは困りものです。最低でも、「音読する」を入れてくれれば、センターまで190本の評論文を読むことができます。2日に1度解いてくれるだけでも、90題の問題演習が積み重なるわけですから、ずいぶん改善されるはずですよ。

もちろん、演習なしで済むわけではありませんが、古文、漢文、英語長文、地歴などでも、どうしてもやる時間が確保できない時には0にするのではなく、こうした音読を入れることで、毎日最低限の分野学習を保証すると力がついていくことでしょう。

以上のようなことを踏まえて、万全の体制で夏休みに入ることを期待します。

各種推薦入試についての注意

推薦入試については、各種説明してきたつもりではありますが、再度いくつかの注意点を掲げますので、慎重に考えて出願してください。

芝浦工大推薦

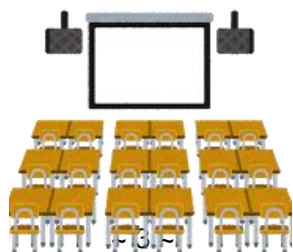
- ① 第一志望に限ります。したがって辞退はできません。
- ② 成績・出欠・生活面の基準がありますので、下回る生徒は推薦されません。
- ③ 学部の枠がありますが、枠については発表しません。例年、各学科均等になるケースが多いです。
- ④ II期推薦については、若干名の募集となり、空きのある学科に限定されますので、志望する学科系がなかったり、優秀でも不合格となったりすることがあります。また、基準自体は厳格に適用されますので、I期よりも厳しくなります。
- ⑤ 選考は、基準を越えている生徒の中で、3年間の成績、推薦試験（卒業試験）の成績で行われます。
- ⑥ 卒業試験の成績が重視されますので、基準を越えていても、大きな失敗をすると不合格になることもあります。推薦試験（卒業試験）が、入試のつもりで、推薦と決めたからこそ、しっかりと受験勉強を継続してください。

指定校推薦

- ① 基準を越えれば、出願できますが、指定された枠内（たいていは1名）の中で推薦しますので、学内で選考があります。
- ② 学力・生活・人物・志望動機など様々な面を総合的に判定します。ふさわしくない生徒は推薦できませんし、明らかに総合的に優れた生徒を優先的に推薦します。ただし、そうした面で優劣がつけにくい場合は、成績で決めることが多くなります。
- ③ 第一志望に限りますので、1度に複数の出願はできません。
- ④ 進学することが条件です。また、進学後、転学、転科などは次年度の枠の取り消しになりますのでそうした心配のない生徒を推薦します。
- ⑤ 先輩の実績を使って進学するわけですから、今後も後輩のために協力してくれる生徒でないと困ります。
- ⑥ 当然のことながら辞退はできません。

公募・AO・自己推薦

- ① 第一志望と限定されている場合、同時に複数出願することはできません。併願可であれば、その限りではありません。
- ② 第一志望がうたわれていれば、辞退はできません。
- ③ 高校入試と違い、合格が約束されていたり、受かりやすくなったりするわけではありません。むしろ、難関になると思ってください。
- ④ 面接、小論文が課されている場合、たいていは進学する学科に関わる専門的な知識と実績（レポート、論文などの提出）が必要となり、準備にかなりの時間を要するケースがあります。
- ⑤ 学科試験が課されている場合、0次入試的な意味合いが強く、本試験より難度が高いケースが多くなります。
- ⑥ 倍率が低かったとしても、評定などの基準がある場合、優秀な人の中での倍率ですので、一般入試と比べるわけにはいきません。したがって、ぎりぎりを出願する場合、アドバンテージはありません。
- ⑦ 大学によって、どういう基準で選考するかが大きく異なりますので、慎重に調べて準備をしましょう。
- ⑧ こちらでは、紹介などは行いません。まずは自分で願書などを取り寄せてください。



最後まであきらめない！

いよいよ最後の夏がやってきました。高校生活最後の夏、受験前の最後の夏です。進路、ひいては自分の人生について、真剣に考え、立ち向かう時がやってきました。考えてみれば、ここまでは、なんとかなってきました。自分の今の状況が必ずしも好ましいものかどうかは別として、こうして高校まで無事に通っているわけですから、決してベストでないとしても、なんとかなっているわけです。

しかし、ここからはそうはいきません。大学進学、就職…さまざまな人生の選択が君たちを待っていることでしょう。この日本においては、高校に進学するという事は、かなり一般的な常識であり、この「高校受験をする」ということについては、中学校の時に行われた選択ですから、準備に関しても、様々なサポートがあり、また、準備もある一定のパターンの中で行われたものです。それに対して、大学受験は、それ以外の選択もありますし、手段もさまざまですし、それだけで何かが決まるわけではありませんし、そして、一方、親の力から離れて自分ひとりで生きることを意識しはじめることになるのです。

「あきらめない」と書きましたが、自分の人生をあきらめるわけにはいきません。最後まで、自分だけは自分の人生に付き合わなければいけません。それどころか、君たちはあとあと10年もするうちに、結婚や出産など、他人の人生さえも大きな責任として背負わなければなりません。ですから、あきらめたくても、あきらめるわけにはいかないところに突入するのです。

ともすれば、脳天気な1年前の自分は、「あきらめないぞ」と簡単に考えていたはずですが。それに比べて、今の君たちは、もしかしたら、ひとつずつ現実にぶつかり、あきらめはじめているかもしれません。ただ、それは正しいことです。本気で目標に向かおうとすれば、苦しいに決まっています。本気になれば、それに比例して目標の困難さに気づくからです。言い換えれば、「あきらめない」と脳天気に考えていた1年前の君は本気でなかったということです。

しかし、考えてみてください。本気でないときはあきらめない、本気になったらあきらめたい。そんな安直な人生でいいのでしょうか。これから社会に向かう君たちは、必ず苦しいことに出会うはずですが。それは「本気で」「できないことを」「なんとかしたい」と願うからです。その苦しみに出会うたびに「あきらめる」ことを続けていいのでしょうか。

今まで「何とかなる」とたいしてがんばりもせず、いざとなったらあまりに大変で不安になる、というそんな状態ではいいわけがありません。みんなががんばると自分ががんばっても伸びない気がする…などと甘えたことを言い出すかもしれませんが、合格するには、今、自分が足りないことを、受験の日までにたたきこむだけです。したがって、「頑張っても合格が遠くなる」ことはありえません。あなたが覚悟を決めて、「受験の日までに」「ここまであげる」「そのためにはここまで終わらせる」「これだけやる」と決めさえすれば、あとは「やるかやらないか」だけの話です。すべては、あなたの問題です。あなたが「できない」と思うならあきらめるしかありませんし、「あきらめない」というなら「受験の日までに」「やるべきことを」「すべてやる」だけです。この時、やっても合格から遠ざかることはありません。問題集1ページでも、単語一つでも合格に近づいているのです。もちろん、合格ラインまで受験の日までに到達しなければいけませんから、あとは自分と戦ってやるべきことをやるだけです。

受験というものを通じて、是非、最後の勉強をしてください。私たちがこうしてバックアップできるのもあとわずかです。大学や社会という場所では、直接的なバックアップや指導はないのです。

苦しくなっても簡単にあきらめない。苦しいことは、目標に向かって正しいステップです。すくなくともこの夏休み中は、しっかりと苦しみましょう。そして、その中で、気分転換や悩みの吐露を、テクニックとして身につけましょう。

ですから、学校に来て友達に会う、先生に相談するというのは、大切な手段であり、逃げではありません。

保護者の方は、是非、「楽にする」というのは、こうした「苦しみ」の発散の仕方でもフォローしてあげてください。おいしい食事を作る、模試の成績が悪ければ好物を作る、自分の苦しいときの話を…みんなが通った道です。そして、みんな成功したわけではありませんが、今となっては、その課程が懐かしい思い出になっている、そんな話をしてあげてほしいと思います。もちろん、口べたであれば、遊びに連れて行く、買い物につきあってあげる、お小遣いをあげて遊ばせるなどなど、フォローの手段はたくさんあると思います。

さあ、最後の夏です。あきらめないために、みんなで一丸となって、がんばりましょう。

保護者へのお願い

様々な入試情報交換会に出ていると、進学実績に立ちはだかる「敵」のひとつに「保護者」をあげる人が多いようです。私たちは「敵」とは思っていないですが、志望校合格に向けて、皆様のご協力を仰がなければいけないことも確かです。これまでもいくつかのお願いをしてきましたが、夏休みを前にいくつかのお願いをしておきたいと思います。

志望校を下げさせない

この夏の第一の注意点は「志望校を下げさせない」ことです。もちろん、第一志望（たとえば早稲田）も、第二志望（たとえば明治）も、第三志望（たとえば日大）もE判定であると言うようなときに、現実的に志望校を第二志望あたりにする、ということであれば、さほどいけないことはありません。しかし、第一志望がD判定、第二志望がB判定などと言うときに、志望校を下げるのは、完全に失敗につながります。なぜなら生徒は楽になりたいからです。どうして、ここで志望校を下げるのかといえば、「第一志望に向かう学習が苦しい。第二志望なら楽になれる」という理由に他なりません。結果、どうなるかといえば、「受かった気になって勉強しない」ということにつながるのです。長い間生徒を見てきた間違いのない印象です。最後まで、がんばった上で最後に現実的な入学、受験をするのはかまいませんが、夏休みの途中で、志望校を変えるほど危険なことはありません。

これは各種推薦入試についても同様です。第一志望の公募推薦などがあり、無理を承知で受験する時はがんばれるものですが、「推薦があるから〇〇大学を志望する」という場合、多かれ少なかれ「推薦が受かりやすい」と思っているわけです。まして、これが小論文や面接であったりすると、要は「受験勉強からの逃避」をしているだけです。

指定校推薦についても同様で、納得づくで出願するならともかく、下げて出願した場合、後で成功した友達を見ながら「受験すればよかった」などと思うようでは、選考されなかった人に失礼ですし、自分自身のためにもよくないでしょう。

「絶対現役」と言わない

これまでも何度か書いてきましたが、この言葉は禁句です。お子さんが勉強しないという悩みがあった時、何も言うな、ということではありません。「勉強しなさい」と言いたいなら「勉強しなさい」というべきだということです。現在の受験状況は、大学さえ選ばなければ必ずどこかに合格します。ある程度、受験勉強をした生徒なら、そこそこの大学（価値観は人によって違うでしょうが）の合格は必ずとれるのです。したがって、現役を強調すればするほど、結局、先ほどの項目の「志望校を下げる」意識に転化していきます。それはむしろ「勉強しない」方向に向かわせる確率が高いのです。例としては、「科目を捨てる」「難しい分野を捨てる」、その程度で済めばいいのですが、何人かの生徒は自分の都合のいいように解釈をすすめ、「現役で受かるためには、科目が多すぎる」→「したがって科目を捨てる」→「〇〇という受験型の〇〇という大学にしぼる」というような論理で、自分に都合の悪い難易度から目をそらすのです。大学受験において、科目の少ない受験型ほど一般に難易度が上がり、かつ併願関係は少なくなりますから、こうした論理は結果として、浪人への道まっしぐら、ということになるでしょう。

この心理は特に、推薦で多く見られるようです。「学習の成果が上がらない」→「普通の勉強はだめだ」→「小論文や面接ならなんとかなる」→「公募推薦を受験」というような形です。この論理も「小論文や面接ならなんとかなる」というところに破綻があります。合格のためには、準備が必要であるのに、小論文・面接＝大丈夫、と考えているところに危険があるでしょう。

親自身が「絶対現役で」と考えることにさまざまな危険が潜むことを理解してください。浪人させる、ということではありません。現役で行くかどうかは、全て受験が終わった時に考えればいいことだ、ということです。

「〇〇大学でなければ受けるな」と言わない

このことについては、秋の保護者会で詳しく説明しますが、全ての受験が終わった後に「〇〇大学以外は行かせない」ということは必ずしも否定しませんが、受験前の大学でそういう誓約をつけるのはあまりいいことではありません。理由は次のようなものです。

- ① 第一志望を合格する前に併願大学をシミュレーションとして受験することは大事なことです。仮にセンターで合格をとっても、第一志望前に、きちんとシミュレーションしないとイケない。

- ② 仮に受かっても行かない大学だとしても、受かって浪人するのと、受けていないのでは、浪人したときの心理的プレッシャーが格段に違う。まして、落ちているとすれば、その程度の学力であったことを認識して浪人すべき。
- ③ 何より、「受けない」＝「受かる学力がある」という甘い認識にさせない。届かない第一志望をとりあえず受けることに苦しみはない。届くかどうかのところに向け、きちんと苦しむことが、浪人するにしても大切な勉強の一步。そのチャンスを無駄にしてはいけない。

早く楽にしようとしな

いずれにしても、共通しているのは、親自身が「早く楽にさせてやりたい」と考えていることではないでしょうか。しかし、それは本当にこどもの為でしょうか。もしかして、「早く楽になりたいのは自分」なのではありませんか。

子どもが家にいると勉強していないことが見えていららするけれど、塾に行っていれば、学校に行っていれば安心するというのも同じ心理かもしれません。つまり、「早く受験が終わってほしい」のは、自分なのかもしれません。

受験制度がよいものか、悪いものかは賛否両論あるとは思いますが。しかし、生徒達はこの現実の中で、自分の目指す進路に向けて、苦しい戦いをしているわけです。私たちは、正しく「苦しませる」ことが大事なのではないかと思えます。生徒が社会に出て行くまでにあと数年しかありません。自分なりに考え、自分なりに行動し、自分なりに苦しむことがマイナスに働くとは思いません。マイナスに働くとすれば、親が先回りしてその困難を一生懸命摘んでまわり、地ならしをしてしまった時のように感じます。

子どもたちは子どもたちなりに、自分の人生に立ち向かっています。立ち向かうということは、常に苦しく、思い通りにいかず、不安なものです。どうすれば、サポートできるのかというその問いかけの答えは、あったとしても非常に難しいことのような気がしますが、単純にいつてしまえば、正しく戦わせる、悩ませる、苦しませる、ことなのではないでしょうか。遊んでいたとしても、将来の不安にさいなまれる、さいなまれなかったとしても数ヶ月で現実が突きつけられるのが受験生です。

保護者自身が楽になりたいという気持ちから、前述したような甘言を生徒にささやかめよう、ご協力をお願いします。

センター試験の主な実施日程

9月 1日 (金) ～10月6日 (金)	受験案内の入手 (学校一括)、 検定料振込み (コンビニ不可、窓口のみ)
9月26日 (火) ～10月6日 (金)	出願 (学校一括)
10月24日 (火) まで	確認はがきの受領
11月 1日 (水) まで	登録内容の確認、訂正 (希望者のみ)
12月13日 (水) まで	受験票の受領 (登録内容再確認)
1月13日 (土) 14日 (日)	大学入試センター試験 本試験



夏休みの学校の利用に関して

期 間	下校時間 (一般生徒は 16:00)
7/21~8/4	17:45(最終バス)
8/17~8/26	17:45(最終バス)
上記期間の日曜日・8/5~8/16	登校できません

- ◆ 16時までには任意の校舎内自習可能な場所で勉強できます。
- ◆ 16時以降は、ホール棟の空き教室・演習室および自習室のみ使用してください。
(16時以降は学年の先生が把握できる状況での自習のみ可能となります)
- ◆ 夏休みを通して、体育館等の工事をおこないます。極力、講習や自習には影響の出ないようにお願いはしていますが、多少の音が出ることをご了承ください。

今後の予定

- 7月21日(金)~26日(水) 第1期 夏期講習(日曜日を除く)
- 7月27日(木)~8月1日(火) 第2期 夏期講習(日曜日を除く)
- 8月17日(木)~8月22日(火) 第3期 夏期講習(日曜日を除く)
- 8月28日(月) 始業集会(授業なし)
- 29日(火) 河合模試
- 9月12日(火)~15日(金) 前期期末試験(生徒手帳の記載と日程変更)
- 26日(火)~28日(木) 自宅学習
- 29日(金) 増穂祭準備日(高3は参加者以外、自宅学習可)
- 30日(土)・10月1日(日) 増穂祭(高3は参加者以外、自宅学習可)
- 10月2日(月) 終始業式
- 3日(火)~5日(木) 代休・秋休み
- 6日(金) 平常授業開始

10/5 でセンター100 日前!

夢実現のための十則

- 夢を持て。ない夢はかなわぬ。目標なく一生懸命やることに酔うな。
- やることを与えられるな。自分のために創り出し、形にして期限を決めよ。
- 他人と関われ。他人を理解しようとしろ。他人に理解される努力をしろ。
- 挨拶をせよ。人に気付き、人に気付いてもらえる。
- 毎日他人に奉仕しろ。心がきれいなら他人も応援してくれる。
- 話を聞く姿勢を作れ。聞く人には教えたくなる。助けたくなる。
- 書け。何度でも書き直せ。書かないことは考えていないこと。
- 自分と戦え。自分は見ている。人と戦うな。気にするな。自分が変われ。
- 大事なことは最初にやれ。優先順位を考えろ。タイミングを逃すな。
- 成功を繰返し、失敗を繰返さぬよう分析しろ。原因を五回さかのぼれ。